

あったかいがいいね

シャローム横浜通信 3月号



食品衛生管理について

暦の上では春とはいえ、いまだに冬の寒さが続いておりますが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか？

毎年気温の上昇は確実に進んでいます。日本海側や東北・北海道などで大雪による被害が発生するなど、様々な問題が出ています。施設内に目を向けると、風邪症状もようやく落ち着いてきました。これからはインフルエンザB型が広がる可能性もあるため、感染対策をしっかりと実施して予防に努めてまいりたいと思います。

先日、栄養課の課長より、シャローム横浜の栄養課が表彰されるので、令和6年度食品衛生協会の表彰式に出てほしいとの依頼を受けました。場所は横浜開港記念会館とのことで、少人数で表彰されると思つて気軽に引き受けましたが、実際に会場に入ったところ、横浜市役所の職員が中心となつて運営しており、非常に大きな規模の式典であることに気づかされ、緊張いたしました。

この式典は保健所を管轄する横浜市と横浜市食品衛生協会の共催

で行われており、毎年市内の500か所以上ある飲食店舗や食品関連施設の中から、市長表彰・食品衛生協会長表彰・協会長感謝状と、食品衛生の改善向上に寄与した功労者・施設・従業員等に対して表彰をしています。そのような中で、シャローム横浜は食品衛生の改善と向上によく努力し、食品の取扱い及び施設が衛生的で他の模範となるこの理由で、横浜市長表彰を受けることができました。

シャローム横浜は地域の方より「中庭にピザ釜がある施設ですよね」とよく言われていますが、実際にも食事と看取りが施設の特徴となつています。特に要介護状態となつてご自分で自由に動くことが困難なご利用者にとつて、最大の楽しみは食事です。この生きがいでもある「食」の部門で表彰されたことを糧として、今後も誠実に食品衛生の向上を目指して努力を続け、シャローム横浜をご利用する皆様方に、「安心で美味しい食事」を提供してまいりたいと思います。

施設長 高原信夫

新年を迎えて

新年を迎え、1月7日に新年会を開催しました。お菓子やジュースを楽しみながら、笑顔と活気にあふれ、心温まるひとときを過ごすことができました。この楽しい時間を通じて、ご利用者同士の絆が深まり、素晴らしいスタートを切ることができました。今年も皆様で素敵な思い出をたくさん作りましょう。

3階副主任 ズルハム リトンガ

第 295 号

令和7年2月15日発行
(毎月1回15日発行)

責任者:施設長 高原信夫
〒241-0802
横浜市旭区上川井町 1988
社会福祉法人
アドベンチスト福祉会
シャローム横浜
☎045-922-7333

編集委員
荒金・石川・石橋

<https://www.adventist-welfare.jp/yokohama/>



EPA 介護福祉士候補生の日本語と介護の勉強

去年の12月下旬から、2名のEPA 介護福祉士候補生を迎えています。

週に1日、勉強の日を設け、2名は熱心に取り組んでいます。既に日本語能力試験（JLPT）N3レベルも先日合格しました。

介護の仕事も勉強も一生懸命頑張っていますので、応援よろしくお願いします。

EPA 研修担当 坂本 晋一



手作りデザート ～フォンダン・ショコラ～



2月の栄養課行事は、バレンタインデーということもあり、チョコレートを使った手作りデザートを召し上がっていただきました。メニューはフォンダン・ショコラです。

担当職員も試作を重ねて、おいしく仕上がり、ご利用者の方々も美味しそうに楽しく召し上がっていただきました。

3月はラーメン屋台を予定しています。

栄養課 課長 小寺 秀偉



ケアされていたのは誰ですか？

今年で私がこの施設で働いてきた期間が27年となりました。以前お話したことがあるかもしれませんが、実は私はこうした福祉施設で働く前、牧師という仕事をしていました。外国で10年ほど日系人教会の牧師をしていたのですが、帰国時にこの福祉施設を開設することになり私にも声がかかりました。人に仕えるという事においては同じと思いき、全くためらいもなく福祉の世界に飛び込んだのです。

しかし、現実そんなに甘いものではありませんでした。第一に私には福祉に関する何の資格もありません。それで私は働きながら最初にヘルパー2級を取り、それから3年後に介護福祉士の資格を取りました。私はそれでも足りないと思いケアマネジャーの資格も取ったのです。そして働いている内にもっと福祉全体の成り立ちを知りたいと思いつ

第203回 チャプレン 上前 至

信制の福祉大学に再入学、最終的に社会福祉士の資格をとりました。私はもうこれで福祉の資格は充分と思いき、これ以上の学びは必要ないだろうと、それで少し奢り高ぶっていたのかもかもしれません。

そんな中、ある時、ご利用者から言われたのです。「上前さん、あなたがどんな資格をもっているかは私には全く関係ない。大事な事はあなたが私にどれだけ優しくしてくれるかだよ」と。私はその時、気づかされたのです。私の介護はいつの間にか上から目線の介護になっていたのではないかと。

至言『究極のケアはケアしている者が実はケアされている者から自分自身がケアされていた事に気づく事である』と。そこでケアされていたのは実は私自身だったという事です。

